

利用者名：デザイン学部 講師 相野谷 威雄



Title: Research on Situations in Which It is Difficult to Communicate What You Want to Say - Assertiveness from a Contextual Perspective

(伝えたいことを伝えにくい状況に関する研究 – 状況的観点から見たアサーション –)

Authors: Nono Taniai, Keiko Kasamatsu, Takeo Ainoya

(谷谷 望々 (東京都立大学 システムデザイン学部), 笠松 慶子 (東京都立大学 システムデザイン学部), 相野谷 威雄 (東京工科大学 デザイン学部))

Journal: Human Interface and the Management of Information(HCII 2024)

掲載年月: 2024 年 6 月

研究背景: 本研究は、伝えたいことがうまく伝えられないコミュニケーション困難の要因を、状況的な観点から分析し、特に「非主張的 (アサーティブでない) 行動」に着目したものである。研究目的は、日常生活において自分の意見や感情を適切に表現できない理由を明らかにすることである。

研究成果: コミュニケーションを行う側と受け取る側の双方の視点からアンケート調査とインタビュー調査を行い、得られたデータをもとに行動・思考・感情に対する質的分析を行った。分析の結果、自分の意見や感情を明確に伝えない非主張的行動を取る人々は、自らコミュニケーションを制限してしまう傾向があることが示された。このような参加者は、自分の意見や感情を表現すると相手に迷惑がかかるのではないかという不安や恐れを抱いており、結果として自己表現を避ける行動をとっていた。

社会的・学術的なポイント: 本研究の意義は、アサーション (自己主張力) がコミュニケーションにおける行動、思考、感情と深く関連していることを具体的に示したことにある。この知見は、コミュニケーション支援の手法開発や心理的サポート手法の改善に役立つことが期待される。今後の課題としては、より多様な状況や対象者への適用を通じて、本研究で得られた知見の汎用性を検証し、具体的なコミュニケーション支援策を提示することが挙げられる。